

事業者における放課後デイサービス 自己評価結果（公表）

公表：令和3年1月14日

事業所名 With ひろば早島

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	0	
	2	職員の配置数は適切である	5	0	0	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	4	0	・現在、配慮が必要なお子さんはいないが、必要に応じて、スロープなどの準備を検討する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	2	0	・計画書の評価は、できる限り職員全員で話をしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	0	・茶話会や外部講師講演会については、多くの保護者が参加できるように、日程の検討を行っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	0	・結果を踏まえて業務改善に繋げていきたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	2	3	・現在は、行っていない。 ・職員に対する支援の助言をスーパーバイズの形でいただいている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	0	・外部研修への参加や月に1回事業所勉強会を行っている。 ・第5土曜日はWithひろば真備と合同勉強会を行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0	
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	4	0	・学童用のアセスメントツールは使用していない為、検討していく。 ・特性シートで特性の把握は行っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	2	0	・担当者が療育支援活動計画書を作成・説明し、全職員への周知・意見交換を行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	3	0	・課題が固定化しないように、職員同士で意見を出し合ったり、相談したりしながら、課題・活動の提供を行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	2	0	・休暇等に応じてではないが、ねらいに合わせて設定している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	0	・お子さん一人ひとりの姿から、育ちや芽生えの部分に視点を持ち、計画書を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	2	0	・役割分担については、療育シナリオで周知している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	0	・お子さんが帰宅後に、終礼を行っている。また、当日休みの職員は終礼ノートで確認できるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	0	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	0	・利用回数に応じて、4か月から6か月ごとで評価している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	2	3	0	・地域の人や物の資源の活用については、ねらいに応じて必要性を検討していく。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	0	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	3	2	0	・学校のホームページや保護者の方から伺い、確認している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	3	2	・対象者なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	1	1	・年に1回は、園に訪問させていただき、お子さんの情報共有や支援の工夫について、お話をさせていただいている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内	3	1	1	・小学校3年生までの受け入れの為、対象者なし。

		容等の情報を提供する等している				
関係機関や保護者との連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	0	・第5土曜日には、全職員が参加して、発達障害者支援センターの方から、子どもの育ちや保護者の関わり方、支援の工夫についてお話を聞いている。また、各回で出た宿題に対して、助言をいただいている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	0	4	・現時点では、要望は出ておらず機会を設けていないが、必要に応じて検討していければと思う。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	5	0	0	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1	0	・職員が一方的に話をするのではなく、保護者の思いや考えについて、話を聴けるよう、より一層心掛けていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	0	0	・わくわく子育て勉強会を実施している。今年度は、小学生の保護者の参加はなかったが、次年度に向け、日程なども検討する。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	0	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1	0	・電話対応や個別面談の中でお話をさせていただいている。内容によっては、スーパーバイザーにご指導をいただきながら、対応を検討している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	3	0	・年に1回、お茶会を開催しているが、参加者は少ないため、日程や内容の検討は、必要である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	0	・お便りを2か月に1回発行している。 ・広報誌の発行を始める予定である(令和2年12月より)。
	35	個人情報に十分注意している	4	1	0	・課題プリントのファイルへの挟み間違いがあり、挟む時、申し送りに行く時に、ダブルチェックを徹底している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	1	0	・言葉遣いに気を付けたり、動画を見ていただいたりすることを行っている。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	2	2	・行事は行えていないが、はやしま町歩きというイベントで、プライバシーに配慮した形で、地域の方に事業所内容を知ってもらう機会を作った。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	1	・各マニュアルは作成している。 ・保護者の方に災害時のおたよりを作成しており、早急に配布を行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0		・年3回実施(風水害・地震・火災)。また、不審者対応も行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	1	・虐待防止の心得は、職員の目の付くところに、掲示している。今年度は、研修機会がないため、学びの場は作れていない。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	3	2	・契約書に人権擁護及び虐待防止のための措置として、記載をしている。現在、対象者はいない為、計画書に記載はしていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	1	3	・対象者なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	0	・ヒヤリハットがあがってきたら、書面で全職員に周知している。